

rdp2vnc のセットアップ手順

2006/12/11 株式会社 デジタル

Rev.1.00

1 本文書の目的

本文書は、「リモート PC アクセス機能 (以下 RPA)」での利用を前提に、Windows サーバ上で、RFB(VNC)プロトコルと RDP プロトコルを相互に変換するプロトコルコンバータとして動作する”rdp2vnc”のセットアップ方法を記述します。

2 前提条件

rdp2vnc の動作前提 OS 及び必須機能を、下記に記載します。

なお、rdp2vnc は GPL のため使用時に発生する問題については保証できないことを事前にご了承ください。

- ・対象 OS : Windows Server 2003
- ・機能 : ターミナルサービス機能が必要

Windows 2000 Server では動作いたしません。

3 事前準備

3.1 ターミナルサービス機能のセットアップ

rdp2vnc は、Windows Server のターミナルサービス機能を利用します。そのため rdp2vnc インストール前に、ターミナルサービス機能を有効にして下さい。詳細の設定手順については“8 ターミナルサーバーの設定”を参照願います。

3.2 OpenSSL のセットアップ

rdp2vnc は、OpenSSL の機能を利用し暗号化通信を行っております。rdp2vnc をインストールする前に、下記手順に従い、OpenSSL をセットアップして下さい。

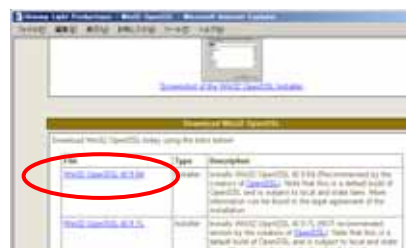
(1) OpenSSL のダウンロード

下記 URL より、Win32OpenSSL-0_9_8d.exe をダウンロードします。

URL: <http://www.shininglightpro.com/products/Win32OpenSSL.html>



トップページです。



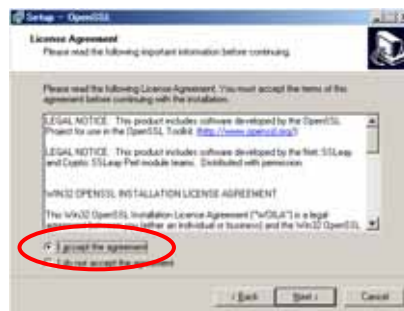
リンクより、Win32OpenSSL-0_9_8d.exe をダウンロードします。

(2) OpenSSL のインストール

ダウンロードした Win32OpenSSL-0_9_8d.exe を実行し、インストールウィザードを起動します。



「Next>」を押下します。



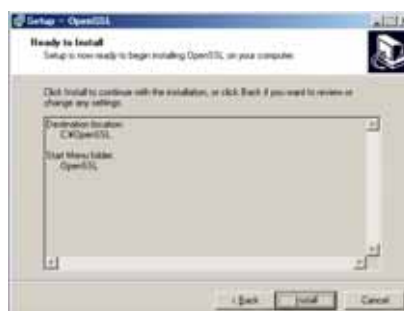
「License Agreement」の内容を確認し、「I accept the agreement」にチェックをし、「Next>」を押下します。



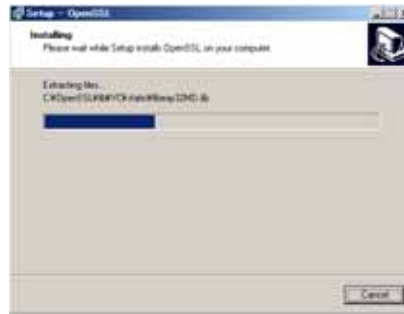
インストールフォルダを指定し、「Next>」を押下します。なお、インストールフォルダの場所はユーザ任意です。



「スタート」メニューに追加するフォルダを指定し、「Next>」を押下します。なお、フォルダ名称はユーザ任意です。



インストール内容を確認し、「Install」を押下します。



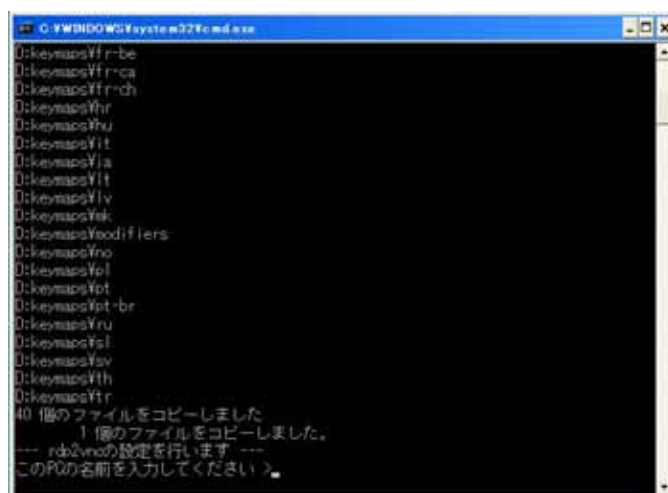
インストールが完了しましたら、「Finish」を押下します。
以上で、OpenSSL のインストールは完了です。

4 インストール

- 4.1 配布された「rdp2vnc.exe」を任意のフォルダにコピーします。
- 4.2 コピーした「rdp2vnc.exe」を実行(解凍)します。「rdp2vnc.exe」を実行(解凍)すると「rdp2vnc」というフォルダが得られます。
- 4.3 得られたフォルダ「rdp2vnc」を開き、「installXP.bat」を実行(ダブルクリック)します。実行後、コマンドプロンプトが起動し、インストール処理が開始されます。

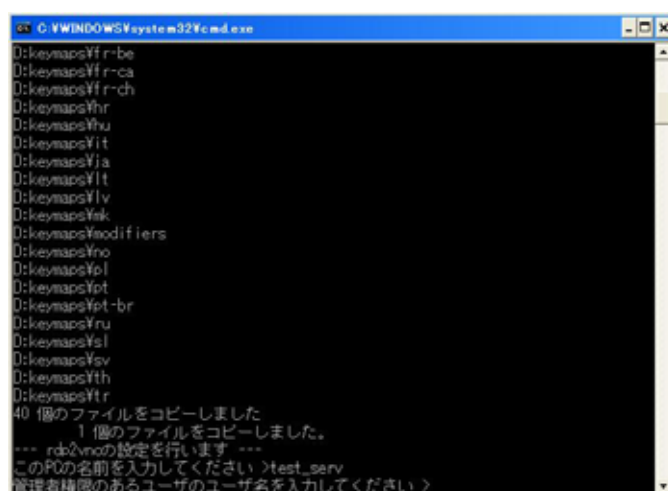
```
C:\> C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
--- ファイルをコピーしています... ---
D:\install2K.bat
D:\installXP.bat
D:\msg.txt
D:\options.txt
D:\options2K.txt
D:\optionsXP.txt
D:\rdp2vnc.exe
D:\uninstall.bat
D:\keymaps\ar
D:\keymaps\common
D:\keymaps\convert-map
```

4.4 インストール対象マシンのコンピュータ名を入力します。



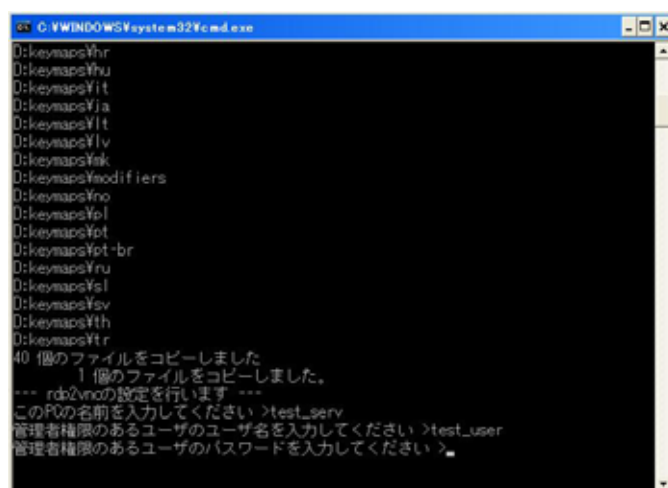
```
C:\VFWINDOWS\system32\cmd.exe
O:keymaps\fr-be
O:keymaps\fr-ca
O:keymaps\fr-ch
O:keymaps\fr-r
O:keymaps\fr-u
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-a
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-v
O:keymaps\fr-k
O:keymaps\fr-modifiers
O:keymaps\fr-no
O:keymaps\fr-l
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-t-br
O:keymaps\fr-u
O:keymaps\fr-l
O:keymaps\fr-v
O:keymaps\fr-th
O:keymaps\fr-r
40 個のファイルをコピーしました。
1 個のファイルをコピーしました。
--- rdb2vnoの設定を行います ---
このPCの名前を入力してください。
```

4.5 管理者権限のあるユーザのユーザ名を入力します。



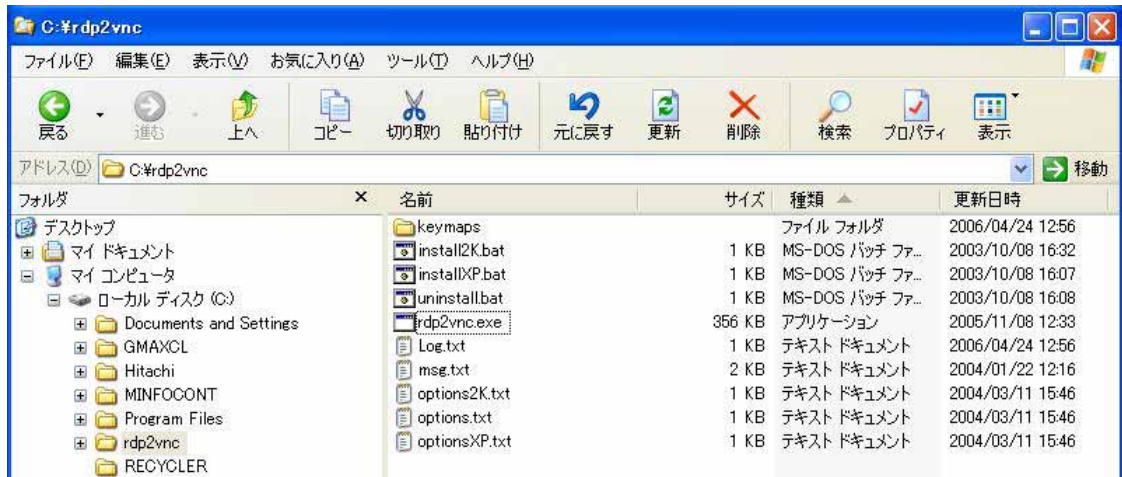
```
C:\VFWINDOWS\system32\cmd.exe
O:keymaps\fr-be
O:keymaps\fr-ca
O:keymaps\fr-ch
O:keymaps\fr-r
O:keymaps\fr-u
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-a
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-v
O:keymaps\fr-k
O:keymaps\fr-modifiers
O:keymaps\fr-no
O:keymaps\fr-l
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-t-br
O:keymaps\fr-u
O:keymaps\fr-l
O:keymaps\fr-v
O:keymaps\fr-th
O:keymaps\fr-r
40 個のファイルをコピーしました。
1 個のファイルをコピーしました。
--- rdb2vnoの設定を行います ---
このPCの名前を入力してください >test_serv
管理者権限のあるユーザのユーザ名を入力してください >
```

4.6 管理者権限のあるユーザのパスワードを入力します。(パスワードが空白の場合は実行できません。パスワードは空白以外の設定にしておいてください。)



```
C:\VFWINDOWS\system32\cmd.exe
O:keymaps\fr-be
O:keymaps\fr-ca
O:keymaps\fr-ch
O:keymaps\fr-r
O:keymaps\fr-u
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-a
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-v
O:keymaps\fr-k
O:keymaps\fr-modifiers
O:keymaps\fr-no
O:keymaps\fr-l
O:keymaps\fr-t
O:keymaps\fr-t-br
O:keymaps\fr-u
O:keymaps\fr-l
O:keymaps\fr-v
O:keymaps\fr-th
O:keymaps\fr-r
40 個のファイルをコピーしました。
1 個のファイルをコピーしました。
--- rdb2vnoの設定を行います ---
このPCの名前を入力してください >test_serv
管理者権限のあるユーザのユーザ名を入力してください >test_user
管理者権限のあるユーザのパスワードを入力してください >
```


4.10 Cドライブに「rdp2vnc」というフォルダが作成されていることを確認します。



以上で、rdp2vnc のインストールは終了です。

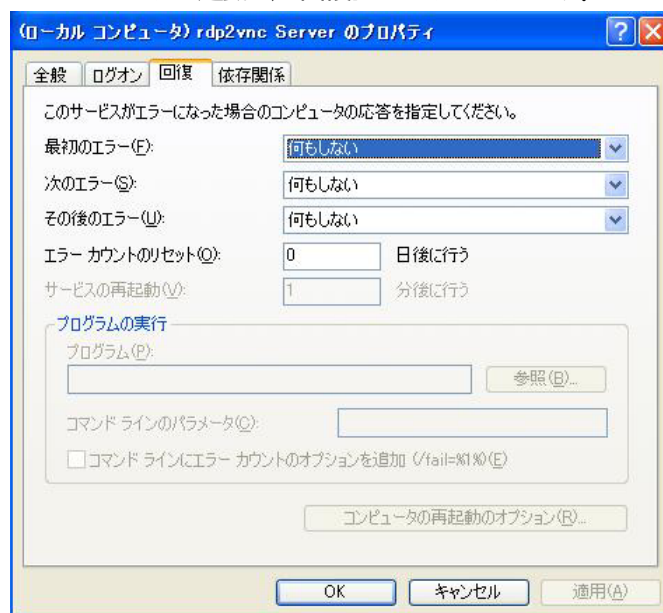
5 セットアップ

何らかの原因で rdp2vnc が異常終了し、RPA から再接続出来なくなるのを防ぐため、rdp2vnc を自動再起動する設定を行います。

5.1 「コントロールパネル」 「管理ツール」 「サービス」 「rdp2vnc Server」と選択し、右クリックで「プロパティ」をクリックします。

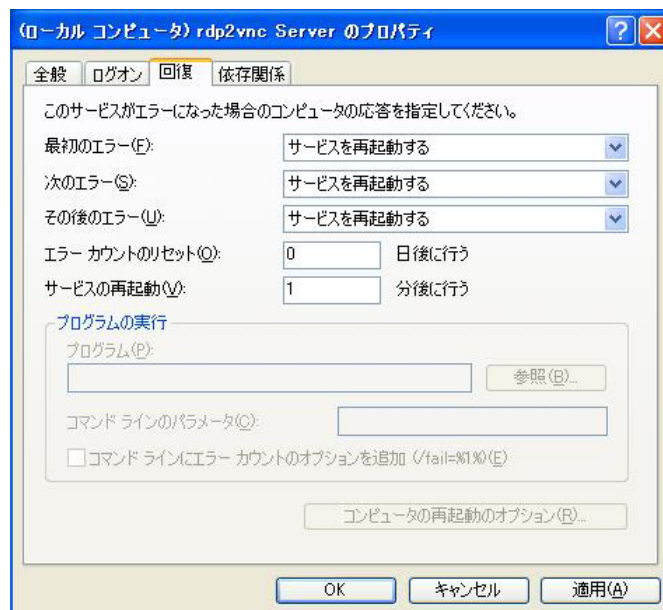


5.2 「rdp2vnc Server」のプロパティダイアログを起動し、「回復」タブをクリックします。

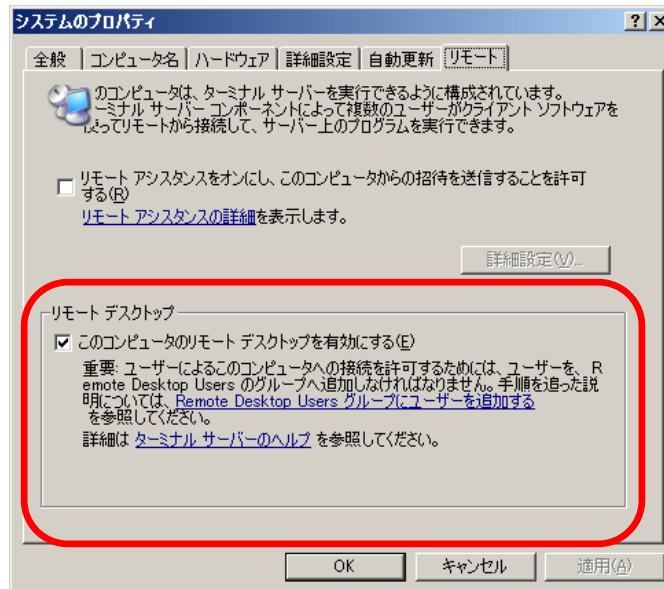


5.3 「回復」タブを次のように設定し、「OK」ボタンをクリックします。

- ・「最初のエラー」:"サービスを再起動する"
- ・「次のエラー」:"サービスを再起動する"
- ・「その後のエラー」:"サービスを再起動する"



5.4 コントロールパネルのシステムでリモートデスクトップを有効にしておく必要があります。



以上で、rdp2vnc のセットアップは終了です。

6 ファイヤーウォールの設定

外部ネットワークからRPAを通じてrdp2vncに接続するには、ファイヤーウォールの設定が必要な場合があります。考えられる設定箇所には、以下のような候補が考えられます。

1. Windows ファイヤーウォール
2. Norton Internet Security(Symantec 社)、ウィルスバスター(Trend Micro 社)などのファイヤーウォール製品
3. 外部ネットワークとイントラネットワークの間に設置する機器(ファイヤーウォールなど)ファイヤーウォール設定

これらの設定については、本文書の範囲を超えるため、ここでは詳細は述べません。これらを設定する場合、必要となる情報としては以下があります。

1. 通信を許可するプログラム名: C:\¥rdp2vnc¥rdp2vnc.exe
2. 通信を許可するポート番号: 5923

7 RPA からの接続方法

7.1 RPA の設定

RPA から rdp2vnc をセットアップした Windows サーバに接続する際の、各項目の設定情報を下記に記述します。
GP-Pro EX の RPA 表示器にて以下の設定を実施してください。

RPAウィンドウ表示器

部品ID
RW_0000

コメント

基本設定 | スイッチ設定

RPAウィンドウ番号 1

タイプ スイッチ起動

RPA起動ドットアドレス

RPAサーバアドレス 10 . 100 . 10 . 1

ポート番号 5923

パスワード

サーバ表示スケール 等倍表示

☐ ウィンドウ入替

☒ ポップアップキーボードを使用する

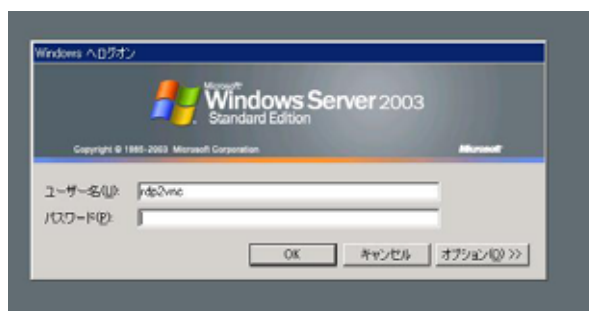
☒ フルキーボード ☐ キートップ

ヘルプ(H) OK(O) キャンセル

- ・RPA サーバアドレス : rdp2vnc をセットアップしたマシンの IP アドレス。
- ・ポート番号 : 5923
- ・パスワード : 空欄。rdp2vnc への接続の際には、パスワードによる認証は行いません。

7.2 接続方法

7.2.1 7.1 の情報を設定した RPA から、rdp2vnc をインストールした Windows サーバに接続をすると、Windows のログイン画面が表示されます。(下図は、Windows Server2003 のログイン画面です)



7.2.2 Windows Server にログインできるユーザ名及びパスワードを入力し、Windows Server にログインして下さい。なお、ユーザ名欄にあらかじめ"rdp2vnc"と入力されていますが、ログイン時に必要ありませんので、ユーザ名入力時に削除して下さい。

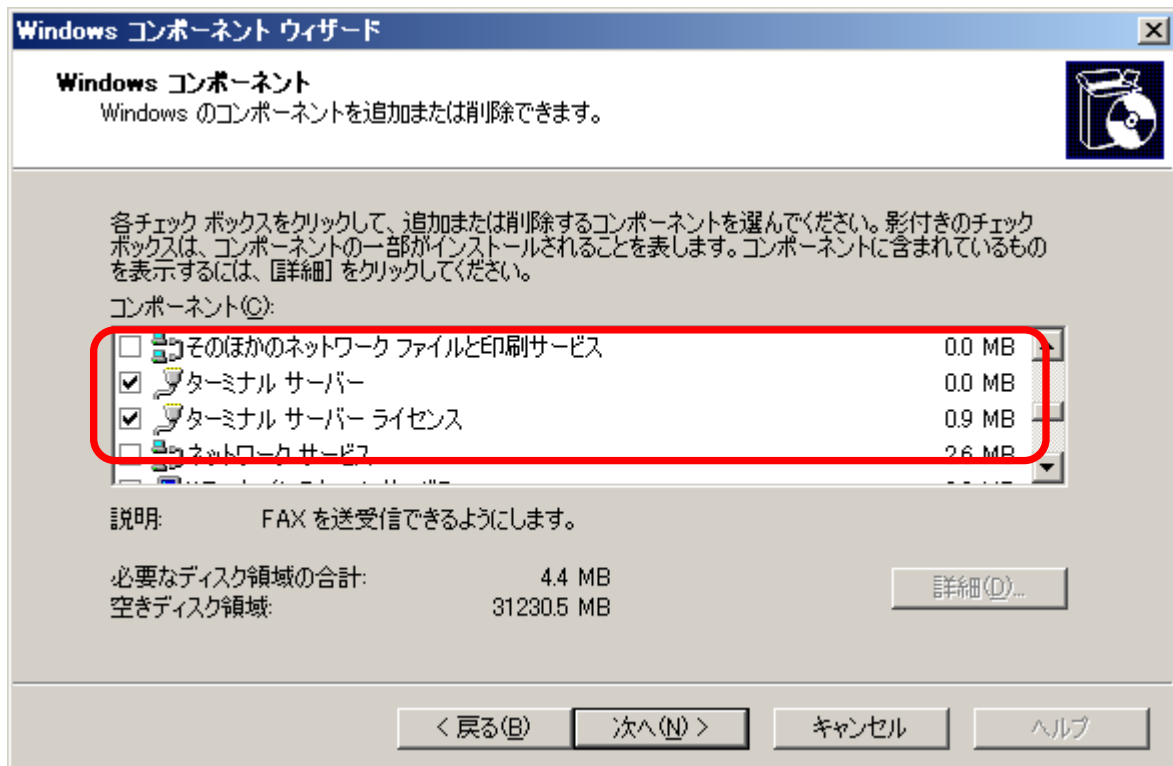
8 ターミナルサーバーの設定

rdp2vnc を使用する場合には Windows Server 2003 でターミナルサーバーをセットアップする必要があります。

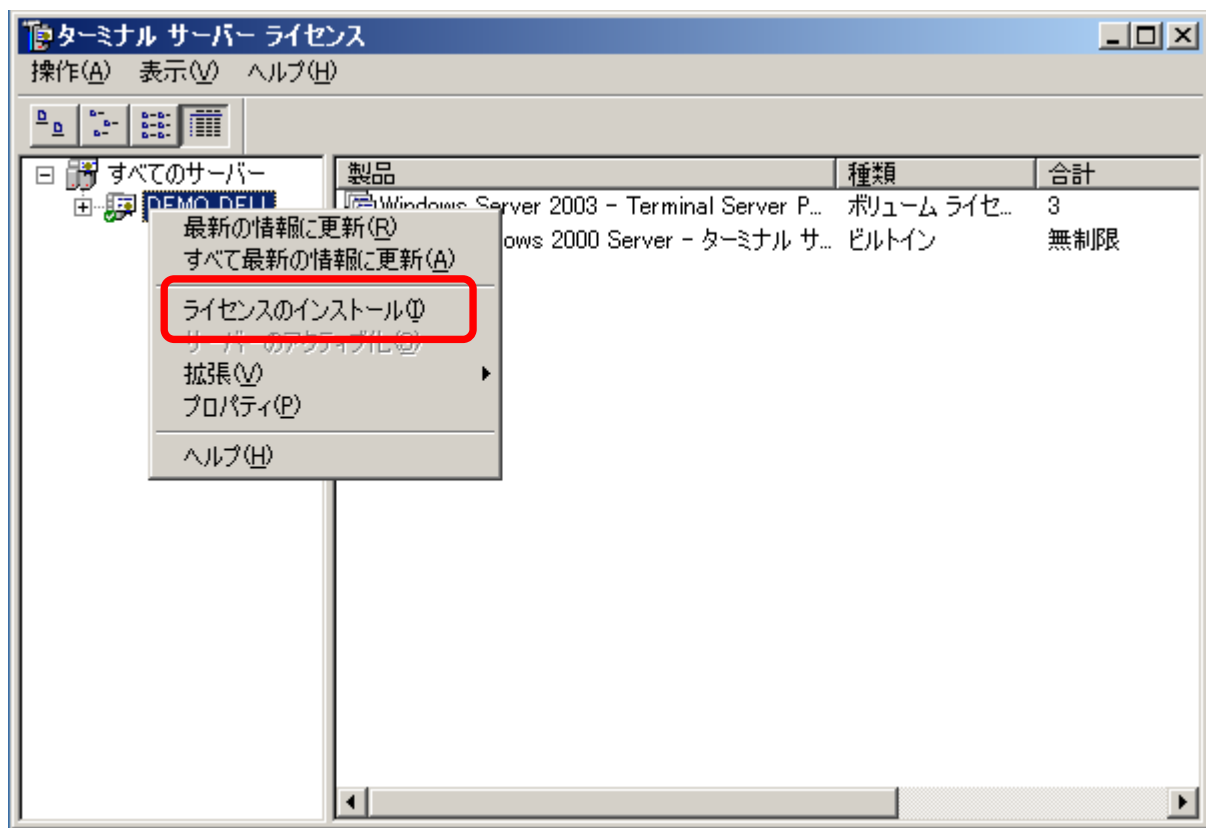
8.1 ターミナルサーバーのセットアップ

Windows Server 2003 にて“プログラムの追加と削除”にある“Windows コンポーネントの追加と削除”を選択してください。

そのメニューにある“ターミナルサーバー”と“ターミナルサーバーライセンス”にチェックを入れてウィザードを進行するとターミナルサーバーのインストールを行います。



インストールが完了すると管理ツールにターミナルサーバーライセンスが表示されますので起動してください。起動すると以下の画面が表示されるのでサーバーとして登録するサーバー名を選択し、右クリックメニューに出る“サーバーのアクティブ化”をインターネット接続環境で実施してください。



アクティブ化の中でクライアントライセンスのセットアップも要求されますので事前に以下のライセンスの購入を実施しておいてください。

- ・ WindowsServer クライアントアクセスライセンス(CAL)
 - Microsoft Windows Server OPEN Business User CAL
 - Microsoft Windows Server OPEN Business Device CAL
- ・ ターミナルサービスクライアントアクセスライセンス(TS CAL)
 - Microsoft Windows Server 2003 Terminal Service CAL OPEN Business User CAL
 - Microsoft Windows Server 2003 Terminal Service CAL OPEN Business Device CAL

以上